

【臨床・研究】

浜田医療センター皮膚科， 平成23年下半期患者統計の検討

しん どう まさ ひさ いし ぐる しん こ
進 藤 真 久¹⁾ 石 黒 眞 吾²⁾

キーワード：人口統計，年齢別，病診連携，OTC，医師患者関係

要 旨

当科は，平成23年上半期までは週1回非常勤医師の外来診療だったが，下半期は常勤体制になった。新患年齢別統計と浜田市の人口統計¹⁾，平成21年の日本皮膚科学会（日皮会）学術委員会による年齢別統計²⁾とを比較して考察した。浜田市の年齢分布¹⁾と当科受診の年齢分布比較，平成21年日皮会誌の年齢別罹患率のデータ²⁾と当科受診の年齢分布比較のいずれにおいても，診療時間の関係で就学者，有職者は通院がしにくいと考えられた。湿疹・皮膚炎群，蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症で外来新患の4割を占めた。蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症，中毒疹・薬疹，母斑は全国平均よりも多かった。真菌症が少ないのは，平成21年に比して外用抗真菌剤のOver The Counter (OTC) 化の影響が考えられた。入院ではウイルス性疾患，細菌性疾患が多かった。手術では脂漏性角化症の冷凍凝固術が多かった。診療時間の面や設備面での病診連携が必要であることが再認識された。

はじめに

浜田市の皮膚科では有床診療所はなく，常勤皮膚科医のいる病院皮膚科の役割は，入院診療，ならびに他科との連携にある。皮膚科開業医で採血検査機器を完備しているところはあまりなく，内科的な検査を行っても，結果が出るのに日数を要していることが推測される。一方，病院皮膚科では採血検査が容易にできる。「皮膚は内臓の鏡」

と言われているが，病院皮膚科受診から内科疾患がみつきり，すぐに院内他科への紹介も可能である。また，浜田市内の開業医には液体窒素がなく，疣贅の液体窒素，脂漏性角化症の冷凍凝固術は当科で行っている。さまざまな側面から，常勤皮膚科医のいる病院皮膚科と開業医との病診連携につき考察してみたい。

外 来 統 計

(1) 地域別初診患者分類：平成23年下半期の全新患患者494人のうち，78%が浜田市からと圧倒的に多かった。駅直結の立地という利点もあって

Masahisa SHINDO et al.

1) 浜田医療センター皮膚科 2) 同 院長
連絡先：〒697-8511 浜田市浅井町777-12

表1 浜田市¹⁾と全国年齢分布³⁾との比較

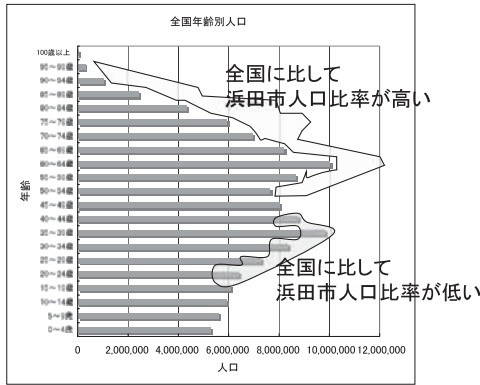
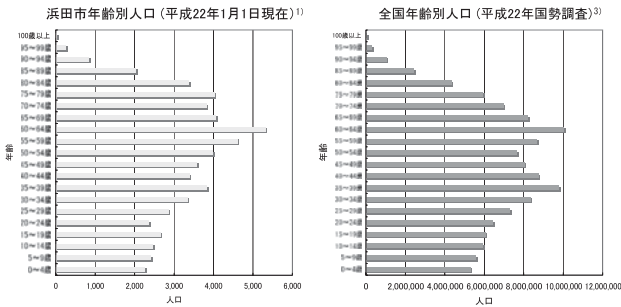
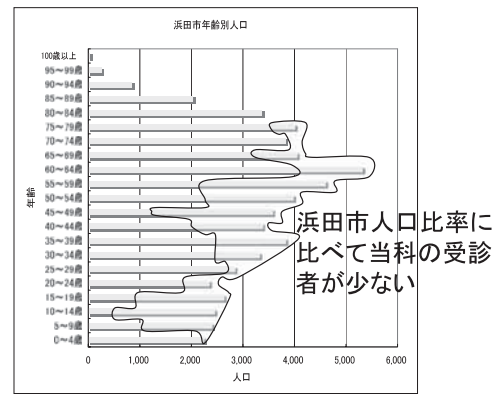
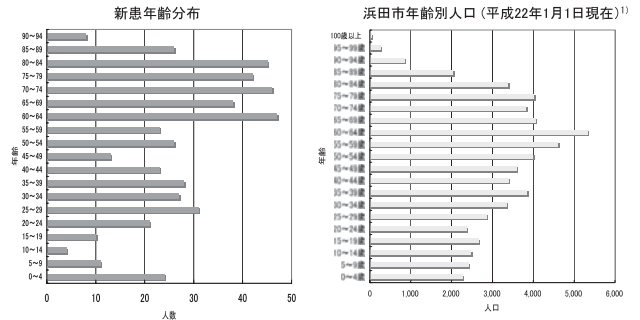


表2 新患年齢分布と浜田市年齢分布¹⁾との比較



か JR の便のよい隣接地域である江津・邑智からは16%で、その他の地域からは1から4%だった。なお、紙面の都合上詳細なデータは割愛した。

(2) 外来患者統計：7月より常勤体制になったため、7月以降の患者数は伸びているが、新患患者数は9月を頭打ちに若干低下傾向があった。(紙面の都合上詳細なデータは割愛した。) まず、基礎となる浜田市の人口比率¹⁾を全国の人口比率³⁾と比較してみた(表1)。日本人の平均年齢45歳³⁾で両者を重ね合わせると、浜田市は、55歳以上が全国に比して多く、20歳から44歳までが少なかった。

(3) 新患年齢分布：浜田市の年齢分布¹⁾と当科受診の年齢分布比較(表2)；当院の受付時間である午前8時から11時に来院できると思われる高齢者の部分で両分布を重ね合わせてみた。罹患率が一定であるとする、就学時から79歳までの受

表3 新患年齢分布と平成21年日皮会誌年齢罹患率²⁾との比較

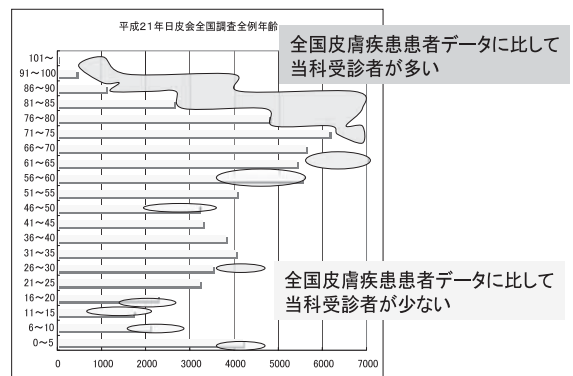
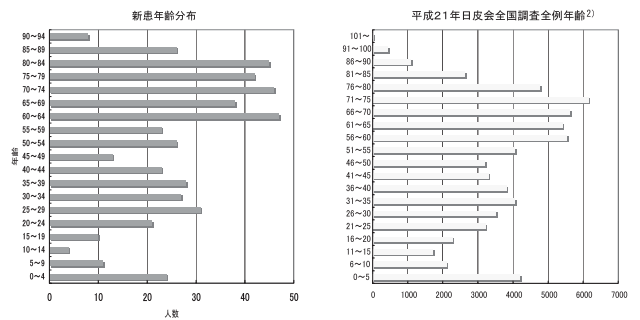
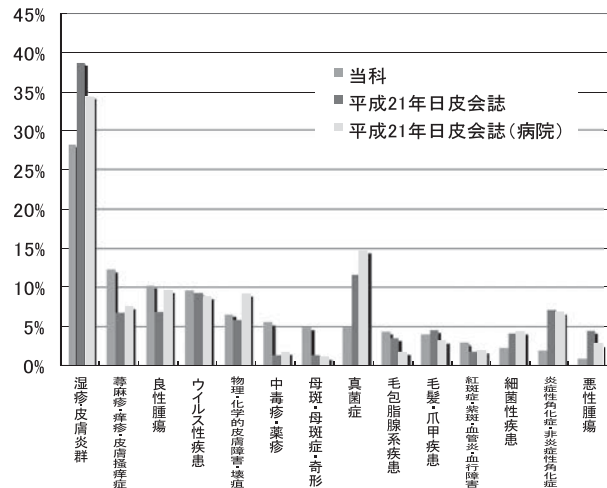
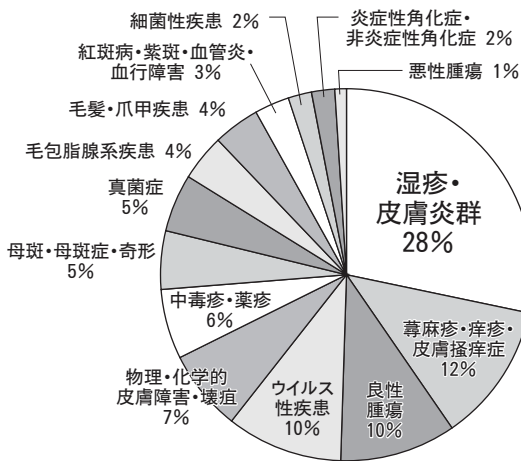


表4 疾患別新患者の平成21年日皮会誌年齢別罹患率²⁾との比較

疾患	当科	平成21年日皮会誌	平成21年日皮会誌(病院)
湿疹・皮膚炎群	28%	38.85%	34.46%
蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症	12%	6.81%	7.65%
良性腫瘍	10%	7.01%	9.69%
ウイルス性疾患	10%	9.31%	8.85%
物理・化学的皮膚障害・壊疽	7%	5.83%	9.22%
中毒疹・薬疹	6%	1.51%	1.83%
母斑・母斑症・奇形	5%	1.45%	1.19%
真菌症	5%	11.59%	14.72%
毛包脂腺系疾患	4%	3.60%	1.83%
毛髪・爪甲疾患	4%	4.63%	3.21%
紅斑病・紫斑・血管炎・血行障害	3%	1.95%	2.05%
細菌性疾患	2%	4.23%	4.40%
炎症性角化症・非炎症性角化症	2%	7.19%	6.93%
悪性腫瘍	1%	4.52%	2.87%



診率が低かった。

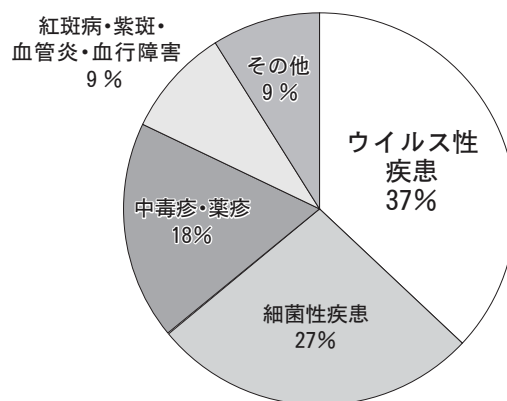
(4) 平成21年日皮会誌の年齢別罹患率のデータ²⁾と当科受診の年齢分布比較(表3): 浜田市の年齢分布と全国の年齢分布が同じとすると, 0歳から24歳, 45歳から60歳での受診が少なく, 75歳以上の受診が多かった。

(5) 疾患別新患者数比較(表4): 疾患別では, 湿疹・皮膚炎群, 蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症で4割を占めた。蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症, 中毒疹・薬疹, 母斑は全国平均よりも多かった。

入院統計(表5)

ウイルス性疾患は带状疱疹, 水痘で, 細菌性疾患は丹毒, 蜂窩織炎だった。

表5 入院患者統計



手術統計 (表6)

手術室手術の皮膚腫瘍切除術は、粉瘤、色素性母斑などだった。外来では、脂漏性角化症の冷凍凝固術が大半で、あとは切創の縫合だった。

考 察

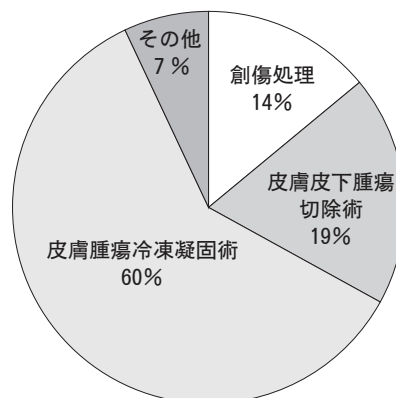
当院の特徴の一つは JR 浜田駅に直結しているという立地にある。JR の駅に直結する JR 系列のホテルはみられるが、基幹病院が駅に直結するケースは少なくとも山陰地方ではみられない。今回、受診交通機関調査はしていないが、この立地が集患にどれだけ影響しているかは興味深いところである。今後、立地条件と受診地域の関係の解析も検討していきたい。

浜田市は、55歳以上が全国に比して多く、20歳から44歳までが少なかった。これは、まさに、20歳から44歳までの人口流出、人口の高齢化を物語っている。浜田市の年齢分布¹⁾と当科受診の年齢分布比較 (表2) では、就学時から79歳までの受診率が低かった。いずれのデータでも、外来診療時間の関係で、就学者、有職者は通院がしにくいと考えられた。特にこの年代の患者は、開業医との連携が必要である。

疾患別新患者数比較 (表4) で、蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症、中毒疹・薬疹、母斑は全国平均よりも多かった。母斑は5%だったが、健康診断で手掌足底の色素斑の方に当科受診をすすめられる先生の影響が考えられた。真菌症が5%と少ないのは、平成21年当時から外用抗真菌剤のOTC化の影響が否めない。

手術統計 (表6) では、脂漏性角化症の冷凍凝固術が大半だった。浜田市内の皮膚科には液体窒素がなく、疣贅の液体窒素、脂漏性角化症の冷凍凝固術は当科で行っている。このようなハード面

表6 手術統計



でも、病院皮膚科と開業医との連携が必要である。

近年の診療報酬、介護報酬の改訂をみても、今後、開業医はより、地域に根ざしていく事が求められ、病院は急性期治療、専門的治療を担う事が求められるようになる。今回のデータから、診療受付時間の観点から病院が収益をあげるためには、就学時の通院しやすい夕方や週末の診療を担えばよいことはわかるが、それでは開業医の存在意義の一部を奪うことになってしまう。病院の、外に広く開かれた外来機能は縮小し、開業医での難治例、救急、あるいは、セカンドオピニオンの診療に限定してもいいのではないだろうか。ただ、制度としてのセカンドオピニオンがどれだけ機能しているかは疑問である。何でも話せる医師患者関係が構築されていけば問題はないが、必ずしもそうはなっていない。フリーアクセスが認められている日本の医療では、医師とのコミュニケーションがうまくいかなければ、患者には医師を選ぶ自由がある。臨床能力もさることながら、患者の言いたいこと、聞きたい事をしっかり聞ける環境、雰囲気、素養というものも医療機関、医療従事者には必要である。とはいっても、医師も一人の人間であり、波長のあう患者もいれば、あわない患者もいる。また、体調の優れているときも、そう

でないときもある。当直明けの不眠不休の状態
診療にあたっているケースもある。

近年、医療もサービス業であるとの認識が広が
りつつある。一時、患者さんのことを「患者様」
と呼ぶこともあったが、違和感を覚えたのは私だ
けではあるまい。病院は、患者にこびへつらう必
要はないと思うが、真摯に患者に向き合うことは
重要である。いわゆるサービス業での気持ちのい
い接遇には、前述の医師患者関係の構築に重要な

要素になると思われる。サービス業では、いわゆ
るクレマーも多いたろうが、にこやかに相手の
真意をつかみ、要求に真摯に答えようとする姿勢
は学ぶべきところも多い。いずれにしても、病院、
診療所（開業医）、それぞれの強みを生かした連
携は重要である。

本論文の要旨は、日本皮膚科学会第123回山陰・
第19回島根合同開催地方会（平成24年3月25日、
出雲市）で報告した。

文 献

1) 浜田市ホームページより

[http://www.city.hamada.shimane.jp/gaiyou/
toukei/popul/03age5_2.html](http://www.city.hamada.shimane.jp/gaiyou/toukei/popul/03age5_2.html)

2) 古江増隆ほか、本邦における皮膚科受診患者の多施設 横断四季別全国調査、日皮会誌、119(9): 1795-1809,

2009

3) e-Stat 政府統計の窓口ホームページより

[http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=
000001037709&cycode=0](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000001037709&cycode=0)